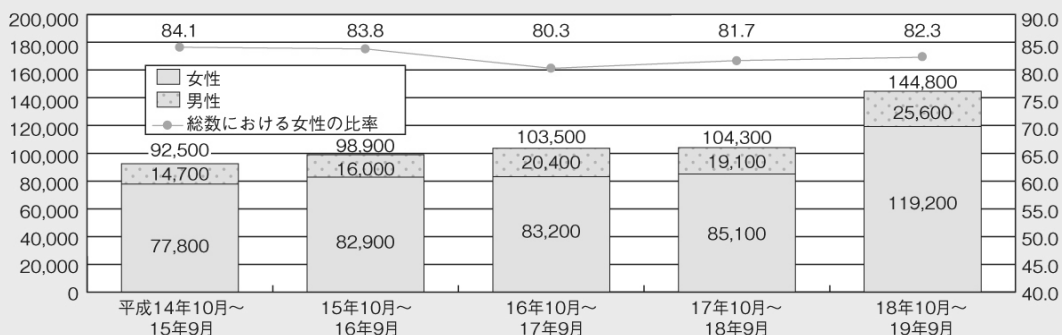


(図1-2-3-16) ですが、NHKの無縁社会の番組でも、親御さんの介護のために会社を辞めて、今度、親御さんが亡くなったあと、再就職しようと思っただけでなかなか難しいというふうな方が何人か出てこられました。やはり家族の介護とか看護を理由として、離転職された方というのは増加をしているということがわかりいただけるかと思えます。18年10月からの1年間の人数というのは、かなり前の年よりも増えているという感じがしております。

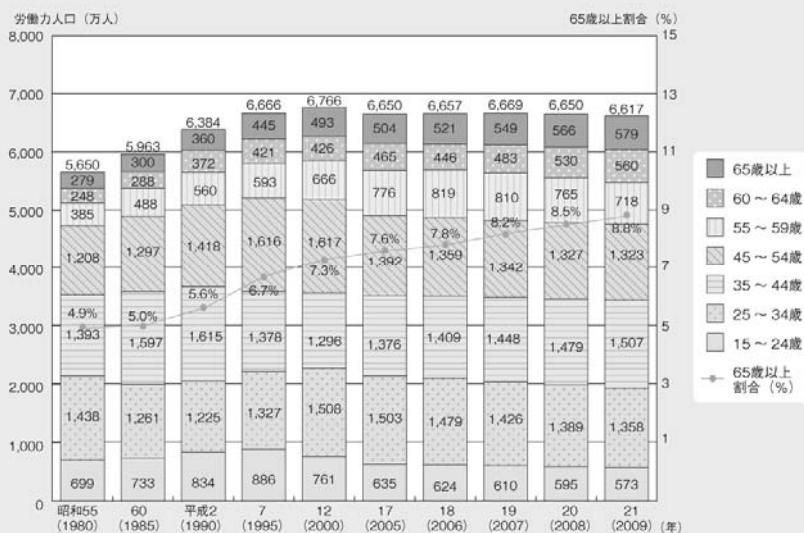
図1-2-3-16 介護・看護を理由に離職・転職した人数



資料：総務省「就業構造基本調査」(平成19年)

次は高齢者の方の就業とか社会参加の数字でございます。労働力人口の推移です(図1-2-4-8)。

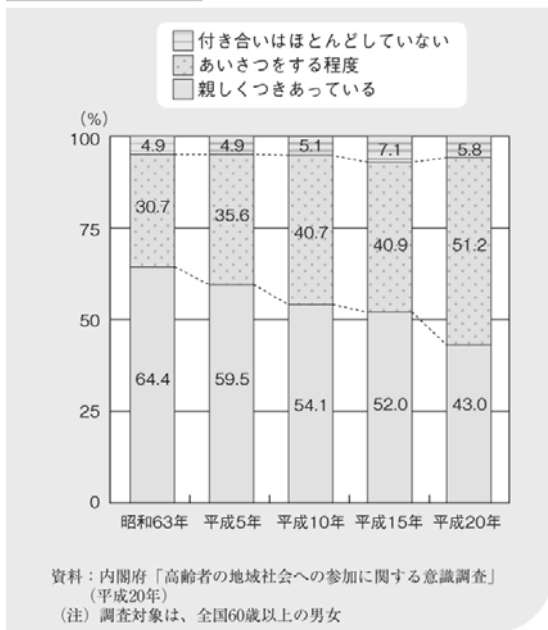
図1-2-4-8 労働力人口の推移



資料：総務省「労働力調査」  
(注)「労働力人口」とは、15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせたものをいう。

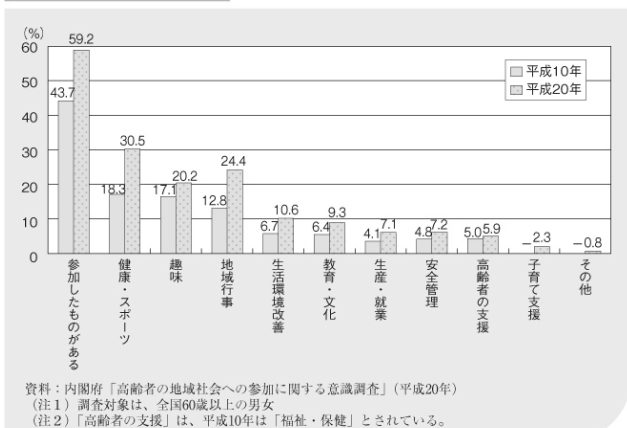
実際に働いている方とお仕事を探している方と合わせたものを労働力人口といいますけれども、労働力人口全体の中で、65歳以上の方がどれくらいいるかという比率は、この折れ線グラフでございまして、その割合というのは高まってきているという状況でございます。

図1-2-5-1 近所の人たちとの交流



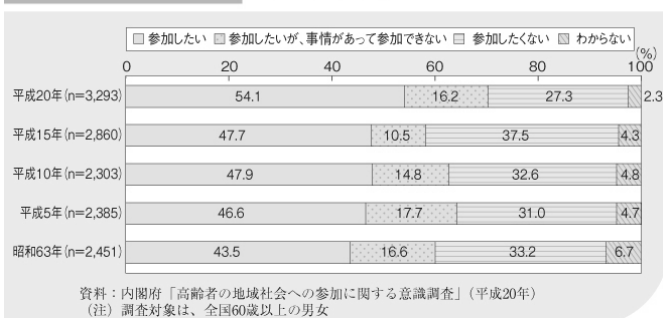
(図1-2-5-1)のほうは社会参加活動の実際の状況ですが、ご近所の方との交流が減ってきているというのが上のグラフでわかります。ピンク色の親しくつき合っているという方の割合が減っていて、あいさつする程度という方が増えているということでございます。

図1-2-5-2 高齢者のグループ活動への参加状況（複数回答）



ただ、(図1-2-5-2及び図1-2-5-5)を見ていただくと、近所の人たちの交流は薄まっていますが、グループ活動の参加状況というのは高くなっています。(図1-2-5-2)をごらんください。グループ活動の参加状況を平成10年と20年で比べた数字ですが、参加したものがあというものが、平成10年で43.7%だったのが、平成20年には59.2%ということで、今日のお集まりの皆さんもいろいろと活動をされていて、グループで

図1-2-5-5 高齢者のグループ活動への参加意向



活動されていていらっしゃる方もいらっしゃるかと思いますが、皆さんのような方が10年前と比べると急増しているというふうなことがございます。

参加意向を聞いたグラフ(図1-2-5-5)ですが、参加意向を見てもやはり参加したいという方が非常に増えているという状況がございます。